

「学生は宝石の原石」

静岡大学が目指す主体的学びとは

目まぐるしく変化する現代社会において、大学への期待はますます大きくなっていますが、大学の使命の1つである「教育」の成果は目に見えづらい部分があります。社会の期待に応えるため、変化の時代を切り拓く力を育むため、静岡大学では具体的にどのような教育・人材育成を行っているのでしょうか。塩尻信義理事（教育・附属学校園担当）へ、インタビューしました。

塩尻 信義 SHIOJIRI NOBUYOSHI

静岡大学理事（教育・附属学校園担当）。京都府生まれ。専門分野は発生生物学。静岡大学理学部を卒業後、東京大学大学院理学系研究科修士課程・博士課程を修了し、静岡大学理学部へ助手として着任。助教授・教授・理学部長等を経て2021年4月より現職。趣味は、散歩・バスケットボール観戦。

学生の自立を促す教育

——静岡大学が人材育成で特に大切にしていることは何でしょうか。

本学は「自由啓発・未来創成」の理念のもと、「多様な文化と価値観を尊重する豊かな人間性とチャレンジ精神を有し、高い専門性と国際感覚を備えた、人類の未来と地域社会の発展に貢献できる人材を育成する」という教育の目標を立てています。

技術革新や気候変動など、めまぐるしく変化する時代に対応できる人材を育成することが重要で、社会の変化に応じて大学の教育も変わっていく必要があります。本学が中期計画で掲げている「課題を発見して探求する」という基本的な思考の枠組みとともに、視野を広げ、他分野も含めた幅広い教養を身に付けた人材は、まさに今の時代に必要とされているものだと考えています。このような人材を育てるためには、教員からの一方向の授業展開ではなく、双方向の対話を通じて、学生たちが主体的に学び、自立し、成長できる環境を整えることが大切だと思います。学生は宝石の原石です。彼らの力を引き出すことが大学の役割であり、教員と学生が学びあうことでよりよい成果が生まれると考えています。

未来と今を充実させる4年間

——主体的な学びを促進するために、具体的にどのような授業が行われているのでしょうか。

将来を展望しながら、大学4年間でどう学ぶのかを考えて

もらうため、「キャリアデザイン」という授業を1年次の必修科目としています。学びや人間関係などの関わりから、主体的に自身のキャリアを考える機会を設けており、特別教育プログラムや起業家育成プログラムなどを通じて学生のキャリア形成を支援しています。

長い人生でキャリアを考えたときに、まずは4年間の学生生活を充実させることが非常に重要であり、様々な知識を得ながら考えを深めるいい機会にしてほしいと思っています。

大学入学時は環境の変化に戸惑うこともあります。授業や学んできた知識・経験以外に、大学時代の人間関係、つながりが将来の大きな支えとなります。そういう意味で、大学時代は「よく学び、よく遊ぶ」、これがすごく大切です。

そして、大学での学びは広く深く、基礎・基本が大事です。これは本学が目指す「総合知」と重なります。若い時期に得た幅広い知見は、将来、様々な場面で必要となる知識や経験となり、支えとなります。狭い専門性だけで社会に貢献できるということはまずありません。現代の課題は非常に複合的



で、広い視野で対応しなければなりません。今の学生にとって「総合知」は非常に大切な考え方と思っています。

——今、社会で求められているデジタル人材の育成にはどのように取り組んでいるのでしょうか。

今日、数理データサイエンス・AI（以下「数理DS・AI」という）はあらゆる分野で活躍するどころか、生活する上でも必須の知識・技術となっています。本学では、全学部生が卒業までにリテラシーレベルの数理DS・AI能力を習得できるカリキュラムを設け、学生の関心を高めると同時に、適切に理解し活用する能力を習得できるようにしています。本学のプログラムの特徴は、独自に開発した動画教材を活用したフルe-learning授業を実施している点です。地域密着型の教材を開発し、県内の複数企業へのインタビュー映像を取り入れることで、現代社会における数理DS・AIの重要性を実感できる内容となっています。

また、数理DS・AIを活用して課題解決のための実践的能力の習得を目指す応用基礎レベルにおいては、4学部（情報学・理学・農学・グローバル共創科学）が文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の認定を受けており、他学部でも認定の準備を進めています。このプログラムは各学部のカリキュラムに基づいて構成しているため、学部によって特色が異なり、多様な人材育成を行っていると言えます。

さらに、2023年度に総合科学技術研究科情報学専攻が「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択されるなど、これまで以上に先端的な数理DS・AI教育の充実を目指しているところです。全国に先駆けて情報学部を設置し、情報学分野を牽引してきた実績もあり、本学の特色の一つだと思います。

自分の力を信じて、粘り強く

——学び、成長する学生たちに対する理事の思いをお聞かせください。また、学生に期待することは何でしょうか。

学生たちの学び、あるいはその成長というのは、入学時から卒業時を比べると激変ですよ。授業や研究を通して間近で見えてきましたが、本当に成長します。また、社会に出て活躍する卒業生たちの姿は、私にとっても非常に大きな支えであり、現役の静大生にはさらに続けてほしいと思っています。多様な価値観と背景を持った学生が集まる大学で、共に学びを進める経験は大変貴重なものです。出会いと学びは、将来にわたって大きな支えとなり、答えのない難題に対して解決策を見出す力になっていくと思います。

そして、静大生はとても優秀です。学生にはそれを「自信」として、表に出してほしい。また、学生のキャリアは、単純でな

くもっと多様であっていいと思います。いろいろな複線があってこそ、人生は面白い。自分の力を信じて様々なことにチャレンジし、粘り強く社会で活躍してほしいです。

——目標とする教育の実現のため、これからどのような挑戦をされるか、今後の展望をお教えてください。

大学に求められる社会からの要請、あるいは社会の変化に対応し、地域の特性を生かして新たな教育へ発展させていくことが重要だと考えています。教育全般では、やはり学生の自立が大切であり、それをサポートすることが大学教育の役割だと思います。本学でも、これまで以上に学生主体という点を重視したいと思っています。

社会ニーズを捉えた教育としては、新たに「カーボンニュートラル教育プログラム」の開設を予定しています。カーボンニュートラルに関する学びを深め、大学を挙げて行動変容に取り組む必要があると考えています。将来を担う世代に対するカーボンニュートラルへの取組は、高等教育機関である大学の責務である、そう感じています。

大学の将来を考えるうえでの重要事項としては、しっかりした学部教育に加え、大学院教育をセットで展開し、教育の太い柱を作っていくことです。現在、取り組んでいることは、全ての土台となっています。また、大学はイノベーションの場でもあります。そのミッションに応えるため、さらに議論を深め、学部教育と大学院教育が非常に充実した大学だということを打ち出していきたいと考えています。



研究や地域連携、留学などあらゆることに挑戦する学生を支援する取組ができると良いと思います。適切なアドバイスをし、学生の自立をサポートするのが大学です。学生には「失敗」を恥ずかしいと思わず、様々なことにチャレンジしてほしいと思います。

学生たちと一緒に研究課題に取り組むことは捨てがたい喜びです。発想が豊かで、元気をもらえて。私自身もっとと学生と関わりを持てればいいなと思っています。